(一財)日本建築総合試験所
建築技術性能証明　評価シート

| 【技術の名称】<br>イチケン式 柱 RC 梁 S 混合構法<br>－帯筋またはふさぎ板を用いた梁貫通型柱RC梁S接合構法－（改定1） | 性能証明番号：GBRC 性能証明 第 23-22 号 改 1<br>性能証明発効日：2025 年 1 月 14 日<br>【取得者】<br>株式会社イチケン |
|---|---|

## 【技術の概要】

本技術は、柱に圧縮力に強い鉄筋コンクリート（RC）を用い、梁には曲げモーメントとせん断力に強く、かつ軽量な鉄骨（S）を用いる混合構法である。本構法により、大空間を確保しながら使用性の高い建築物の設計や汎用性の高い間取りプランの構築が可能となる。RC 柱断面の中心と S 梁の材軸との間にずれのある偏心梁や、スラブ間にレベル差のある場合の段差梁への適用を可能としていることや、また接合部の補強形式として、帯筋タイプとふさぎ板タイプの両方に対応できることを特徴としている。

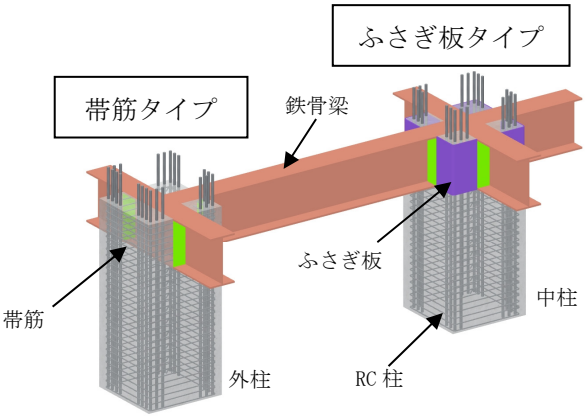


図-1　帯筋タイプとふさぎ板タイプの併用

## 【改定の内容】

新規：GBRC 性能証明 第 23-22 号（2023 年 12 月 6 日）
改定 1：GBRC 性能証明 第 23-22 号 改 1（2025 年 1 月 14 日）
・適用範囲の追加（ふさぎ板タイプにおいて、左右の梁せいが異なる場合（梁せい段差））

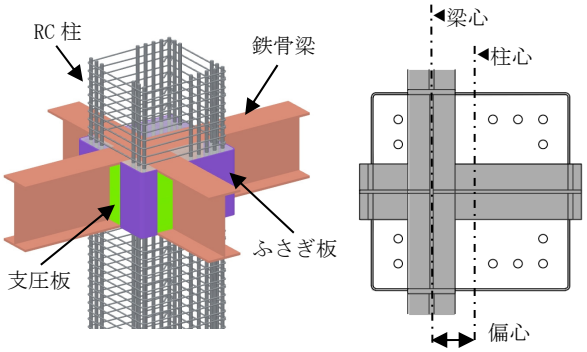


図-2　偏心梁

## 【技術開発の趣旨】

本技術は、2021 年に（一社）日本建築学会より発刊されている「鉄筋コンクリート柱・鉄骨梁混合構造設計指針」（以下“RCS 指針”と称す）に準ずるものである。本構法では、当該指針において適用対象外となっている偏心梁・段差梁への適用を可能とし、外周部の梁の偏心および、商業施設における飲食ゾーンなどの小さいスラブ段差や物流倉庫におけるトラックバース部の大きなスラブ段差などを設計可能とすることを目的として開発したものである。

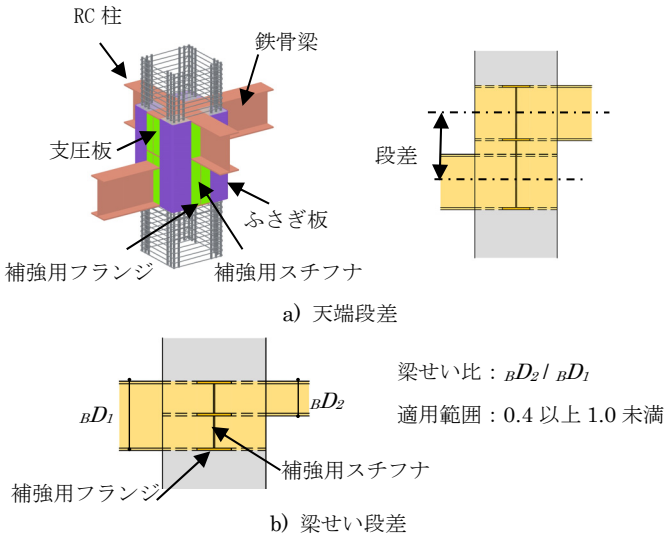


図-3　梁段差

## 【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「イチケン式 柱 RC 梁 S 混合構法　設計・施工指針」に従って設計・施工された RC 柱 S 梁接合部は、同指針で定める長期荷重時、短期荷重時および終局耐力時の要求性能を有する。


【本技術の問合せ先】
株式会社イチケン　担当者：青田 力哉　E-mail：aota-r@ichiken.co.jp
長濱 聖実　E-mail：nagahama-t@ichiken.co.jp
〒105-0023　東京都港区芝浦 1-1-1 浜松町ビルディング　TEL：03-5931-5630　FAX：03-5931-5639